

< 2011年度研修実績 >

1) 【第60回共済医学会学術集会在開催されました】

第60回共済医学会学術集会在10月19日～20日虎の門病院主催で、ホテルオークラ東京で開催されました。節目回に開催された学術集会在に合わせ、5年を経過したシミュレーション・ラボセンター(以下、ラボセンター)もシンポジウムと例年行っている研修を行いました。

学術集会在では学会総合テーマを「チーム医療の推進—チームプレイの中に明日の医療の变革の鍵がある—」とし、会長講演、シンポジウムも主題に沿ったものでした。そしてやはり、100歳の誕生日を迎えられた聖路加国際病院理事長・名誉院長の日野原重明先生と当院で手術を受けられたジャーナリストの鳥越俊太郎さん、虎の門病院出身であり国立成育センターで研修医時代を過ごされ、現在国立成育医療研修センター母性医療診療部長・妊娠と薬情報センター長の村島温子先生に特別講演を行って頂きました。

我々のラボセンターも教育、研修の主題の1つはチーム医療であり、シンポジウムのテーマもシミュレーション教育がチーム医療を行うことに役立つ手段となるかということで、午前はシミュレーション教育にかかわっておられる外部の著名な講師の方々に現在のシミュレーション教育の内外の潮流をお話し頂き、午後はラボセンター関係者で5年間を振り返り、今後の方向性について講演致しました。共済関係者及び外部の方々を含め100名以上の聴講を頂きました。

プログラム及びその内容は次ページ以降をご覧ください。

国家公務員共済組合連合会
シミュレーション・ラボセンター長
虎の門病院 医療安全アドバイザー
中西 成元



第60回 共済医学会 「医療シミュレーション教育シンポジウム」開催のご案内

拝啓 皆様におかれましては、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、第60回共済医学会が下記の日程で開催されます。KKRシミュレーション・ラボセンターは本年4月1日をもちまして、開所から5年という節目を過ぎ、6年目を迎えることができました。これも皆様方のお陰と感謝申し上げます。

この機会に我が国におけるシミュレーション教育、医学教育、そして医療安全管理学の各分野でご活躍されている方々を招聘し、医療シミュレーション教育シンポジウムを、本学会にて開催いたします。是非とも万障お繰り合わせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

※本シンポジウムは平成23年度厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業「医療の質・安全向上を目的としてシナリオベースとしたフルスケールシミュレーターを用いた教育の有用性と遠隔教育の可能性」の一環として開催致します。

KKRシミュレーション・ラボセンター
センター長 中西 成元

厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業
研究代表者 井田 雅祥

敬具

記

学会名：第60回 共済医学会

シンポジウム名：医療シミュレーション教育シンポジウム

日時：2011年10月19日（水）午前の部／午後の部の2部構成

会場：ホテルオークラ東京 本館2階「オークルーム」

参加料：無料

シンポジスト

<午前の部> 9:30~11:50

<午後の部> 14:15~16:15

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ①池上敬一：獨協医科大学越谷病院救命救急センター長 | ①中西成元：KKRシミュレーション・ラボセンター長 |
| ②中島和江：大阪大学医学部付属病院
中央クオリティマネジメント部長 | ②井田雅祥：国家公務員共済組合連合会
虎の門病院 副院長 |
| ③藤谷茂樹：聖マリアンナ医科大学病院
救命救急センター副センター長 | ③野村秀幸：国家公務員共済組合連合会
新小倉病院 診療部長 |
| ④清水直樹：東京都立小児総合医療センター
集中治療部 医長 | ④丸山 泉：国家公務員共済組合連合会
新小倉病院 看護部長 |
| ⑤福土元春：武蔵国分寺公園クリニック 副院長 | ⑤荒井直美：KKRシミュレーション・ラボセンター
ラボマネージャー |
| | ⑥大森正樹：KKRシミュレーション・ラボセンター
ラボマネージャー |

お手数ではございますが、ご参加希望の方は①お名前 ②ご施設名 ③ご職種 ④連絡先（電話番号、メールアドレス）をご記載の上、下記の連絡先へEメールにてお申込み下さい。

お申込みとお問合せは
虎の門病院分院 副院長室秘書 近藤
044-877-5111（虎の門病院分院代表）
e-mail：reha-m@toranomom.gr.jp

シミュレーション教育で「最良の医療チーム」を養成するために必要な3つの要素

日本医療教授システム学会 代表理事
獨協医科大学越谷病院救命救急センター
池上敬一

プロフィール

昭和56年3月	宮崎医科大学卒業
昭和56年5月	大阪府立千里救命救急センター 研修医
昭和57年1月	大阪大学医学部附属病院特殊救急部 研修医
昭和57年7月	国立東静病院外科 研修医
昭和59年7月	済生会神奈川県病院外科
昭和61年12月	大阪大学医学部救急医学
平成元年8月	杏林大学医学部救急医学 助手
平成2年4月	杏林大学医学部救急医学 講師
平成10年1月	獨協医科大学越谷病院救急医療科 助教授
平成11年3月	獨協医科大学越谷病院救急医療科 教授
平成13年1月	獨協医科大学越谷病院救急医療科 教授
	獨協医科大学越谷病院救命救急センター センター長
平成23年10月	獨協医科大学越谷病院臨床研修センター センター長 現在に至る
免許・資格	昭和56年6月 医師免許（医籍登録番号 261005） 平成元年 医学博士（大阪大学、第8728号） 昭和60年 日本救急医学会 認定医 昭和61年 日本外科学会 認定医 平成7年 日本救急医学会 指導医 平成11年 日本熱傷学会 認定医 平成20年 日本熱傷学会 専門医 平成21年 日本外傷学会 専門医
研究歴	昭和60年7月—昭和61年12月 大阪大学医学部研究生（救急医学） 平成5年1月—平成7年1月 ハーバード大学外科（バス・イスラエル病院）留学
学会及び社会における活動等	日本救急医学会 評議員、学会誌編集幹事、指導医認定委員会委員 Immediate Cardiac Life Support (ICLS) 委員会委員 日本外傷学会 評議員、査読委員 日本熱傷学会 評議員、関東地方会幹事 日本臨床救急医学会 評議員 日本外科学会 認定医試験委員 日本救急医療財団 救急救命士国家試験試験委員 Medical Director of Emergency Medical System of West Saitama
日本医療教授システム学会 代表理事	
主催団体・研究会 SimClub	
NPO 法人「救急医療の質向上協議会」代表理事	
アメリカ心臓協会(American Heart Association)	
日本蘇生協議会-ITC(Japan Resuscitation Council-International Training Center) BLS faculty, ACLS faculty	

抄録

シミュレーション教育が知識・スキル・行動変容を獲得する上で有効な方法であることはすでに明らかとなった（Cook DA, 2011）。Cook らが示したのは novice が beginner にプロセス（Dreyfus model of skills acquisition）はシミュレーション教育で効果的に行うことができるということで、現場でのパフォーマンス獲得にシミュレーション教育が有効であることではない。シミュレーション教育によりパフォーマンス能力さらに職能を獲得するためには、次の3つの要素が必要と考える。

1. Story-centered curriculum (Shank)
2. Training manager competencies (International Board of Standards for Training, Performance and Instruction)
3. Personalized integrated Educational system (Reigeluth)

これらの要素を活用した **workplace learning** の環境整備が「最良の医療チーム」養成の基盤となる。

チームパフォーマンスを向上するためのノンテクニカルスキル教育の必要性

大阪大学医学部附属病院
中央クオリティマネジメント部 部長・病院教授
中島 和江

プロフィール

- 【学歴】 1984年 神戸女子薬科大学薬学部,
1988年 大阪大学医学部医学科卒業
1996年 ハーバード公衆衛生大学院医療政策学部修士課程卒業
- 【職歴】 1989年 大阪大学医学部附属病院第二内科
1990年 市立豊中病院内科
1995年 ハーバード・リスクマネジメント・ファンデーション損失予防部
インターン
2000年 大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学助手
2003年 大阪大学医学部附属病院中央クオリティマネジメント部助教授
2005年 同部病院教授
2007年 同部部长

研究領域：Quality and Safety in Health Care

所属学会：日本医療教授システム学会、医療の質・安全学会、日本医療情報学会、
日本病院管理学会評議員等

著書：中島和江, 児玉安司, ヘルスケアリスクマネジメント, 2000年, 医学書院.
中島和江, 児玉安司, 他, 医療安全ことはじめ, 2010年, 医学書院.

抄録

十分な知識や臨床経験を有する医療従事者であっても、適切な判断や迅速な行動がとれないことがある。置かれた状況や心理によって、いわゆる「魔境」にとらわれてしまい、適切なパフォーマンスができなくなることは誰にでもある。専門的な知識や技術であるテクニカルスキルに加えて、ノンテクニカルスキルと呼ばれる状況認識、意思決定、コミュニケーション、チームワーク、リーダーシップ等を研鑽し、医療チームの有する力を最大限に発揮できるようにすることが、安全で質の高い医療には求められる。ノンテクニカルスキルに関する教材開発及びそれを用いた教育を行ったので、その知見について報告する。

シミュレーショントレーニングを用いた院内急変対応トレーニング

聖マリアンナ医科大学
救急医学教室 准教授
救命救急センター 副センター長
藤谷茂樹

プロフィール

平成 2 年 3 月	自治医科大学卒業
平成 2 年 4 月	島根県立中央病院外科研修医
平成 8 年 4 月	島根県立中央病院外科医長
平成 11 年 4 月	自治医科大学総合診療部病院助手
平成 12 年 6 月	米国ハワイ大学内科研修
平成 15 年 7 月	米国ピッツバーグ大学集中治療学フェロー
平成 17 年 7 月	米国 UCLA-VA 感染症フェロー
平成 19 年 7 月	聖マリアンナ医科大学 救急医学教室 講師
平成 20 年 4 月	聖マリアンナ医科大学 救命救急センター副センター長
平成 22 年 2 月	聖マリアンナ医科大学 救急医学教室 准教授

専門医：日本内科学会認定医、専門医、日本感染症学会専門医、日本救急学会専門医、
日本集中治療専門医、日本外科学会認定医、日本消化器外科学会認定医
米国内科認定医、米国集中治療専門医、米国感染症専門医

所属学会：日本外科学会、日本消化器外科学会、日本救急医学会、日本集中治療学会、
日本内科学会、日本医学シミュレーション学会
Society of Critical Care Medicine, American College of Physicians,
Infectious Diseases Society of America, American Society of
Microbiology

関心分野：シミュレーション教育、集中治療域での感染症、集中治療学医学教育

医学的興味：日本における集中治療学の確立（みんなが疲弊することなく楽しく働ける職
場づくり）、院内急変対応

抄録

著者は2003年から2年間ピッツバーグ大学にて集中治療クリニカルフェローとして院内急変対応(RRS)を経験することができた。RRSはノンテクニカルスキルの領域が多く含まれており、シミュレーショントレーニングにて教育を行うことが最も効率よく指導することができる。

現在、私の所属する日本集中治療教育研究会にて、米国集中治療学会が開催しているFCCS(Fundamental Critical Care Support)コースを日本で全国展開しており、その中に、RRSの内容を、高次機能シミュレーターを用いて行っている。その内容の紹介を含め、RRSの教育効果を概説する。

小児急性期医療におけるシミュレーションとその展望

都立小児総合医療センター 救命・集中治療部 実技研修委員会
○池山貴也 清水直樹

プロフィール

平成 13 年 名古屋大学卒
名古屋第一赤十字病院 小児科、
国立成育医療センター 救急診療科、手術集中治療部を経て、
2008 年 トロント小児病院 集中治療部 臨床フェロー
2010 年 フィラデルフィア小児病院 シミュレーションセンター 研究フェロー
2011 年 8月より現職。

専門：小児集中治療学、小児麻酔科学、小児科学
資格：小児科学会専門医、麻酔認定医、PALS インストラクター

シミュレーション研究：遠隔操作シミュレーション、PALS on Demand、
小児多施設シミュレーション共同研究グループ EXPRESS に参加。

抄録

小児急性期医療における教育が抱える最大のジレンマは、重篤な症例ほど数が少ないという事実である。小児急性期医療においては、個人、そしてユニットとして医療の質を保つためには、重症症例ボリュームの欠落をシミュレーションで計画的かつ効果的に補っていかざるをえない。

トレーニングは臨床パフォーマンスを向上するためで、実際に治療するチームで実際の治療を行う環境と同じ、あるいは近似した環境で行うべきである。

シミュレーションの指導者層がまだまだ不足しており、それを補うための遠隔操作シミュレーション、また、co-debriefing などの応用法、評価法を紹介する。

360 度評価はチーム医療の教育に活用できるか？

武蔵国分寺公園クリニック 副院長
福土元春

プロフィール

1972 年 青森県弘前市生まれ

1996 年 3 月 自治医科大学医学部卒業

➤ 自治医大義務年限として

1996 年 5 月 青森県立中央病院（初期研修）

1998 年 4 月 六ヶ所村国保尾駁診療所

2000 年 4 月 一部事務組合下北医療センター国保大間病院

2002 年 4 月 自治医科大学地域医療学（後期研修）

2002 年 7 月 揖斐郡北西部地域医療センター
オレゴン健康科学大学家庭医療学（短期研修）

2003 年 4 月 国保百石病院（現・おいらせ病院）

➤ 地域医療振興協会へ（地域医療を専門とする医師育成）

2005 年 5 月 地域医療研修センター（指導医）

横須賀市立うわまち病院（指導医）

公立長生病院（指導医、診療支援）

台東区立台東病院（指導医）

➤ 医療法人社団 実幸会へ（家庭医療実践の場と医師育成）

2010 年 8 月 石橋クリニック

2011 年 6 月 武蔵国分寺公園クリニック開業（院長：名郷直樹）

専門分野：地域医療、家庭医療、医学教育

日本プライマリ・ケア連合学会認定医、研修指導医、後期研修プログラム責任者、

日本医師会認定産業医

その他の活動：臨床研修指導医養成講習会チーフタスクフォースとして多数参加

ジェネラリストのこれからを考える会（GPEP）コアメンバー

「CMEC ジャーナルクラブ」副編集長

抄録

これまでわれわれは、初期研修医の現場での行動や態度を評価し、本人へフィードバックするために、多職種を交えた 360 度評価を実施してきた。研修医の人材育成と現場評価(work-based assessment)の一環として導入したが、指導医の視点からでは気づきにくいフィードバックが得られる、指導医を含めたチーム全体のモニタリングにつながるだけではなく、チームとして研修医を育てる雰囲気醸成されるという波及効果もある。過去の分析事例を紹介しながら、その効果と課題を考えたい。

なぜ、シミュレーション・ラボセンターが必要であったか
“開所当時「妄想」と言われたが今はどう映るのか”
ヒポクラテス（妄想）クラブの夢

国家公務員共済組合連合会
シミュレーション・ラボセンター長
虎の門病院 医療安全アドバイザー
中西 成元

プロフィール

昭和 42 年 3 月	三重県立大学医学部卒業
昭和 43 年 4 月	虎の門病院医員
昭和 54 年 4 月	虎の門病院循環器センター内科医員
昭和 60 年 4 月	虎の門病院臨床生理検査部部长
平成 7 年	虎の門病院診療技術部総代(兼)
平成 12 年 4 月	虎の門病院副院長(兼)
平成 15 年 6 月	虎の門病院臨床工学部部长(兼)
平成 16 年 12 月～平成 17 年 8 月	三宿病院病院長(兼)
平成 18 年 4 月	虎の門病院副院長兼国家公務員共済組合連合会 シミュレーション・ラボセンター長
平成 19 年 4 月	現職

専門医：日本循環器学会専門医、日本内科学会認定内科医
所属学会：日本インターベンション学会名誉理事、医療の質・安全学会会員、
日本医療教授システム学会理事、日本医療メディーター協会理事、
臨床医学看護教育スキルラボ研究会理事、
日本医療シミュレーション教育研究会世話人、
医薬品医療機器総合機構救済業務委員会委員

抄録

2004 年当時、医療に対する世間の目は特に厳しいものでありました。
そこで、医療の安全と質の向上に、シミュレーション教育・研修が必須と考え、専任スタッフ（荒井、大森両氏）を有した、「妄想」といわれたセンターが 2006 年 4 月虎の門病院分院に開所されました。さらに、私と香取医師はドイツチュービンゲンのヨーロッパ・シミュレーション教育指導者養成講習会に参加し、これが当センターの方向を決定づけました。
現在、研修プログラムはオリジナルのものを多く用い、三年前から出張研修、一昨年からは指導者養成、昨年からは遠隔教育の構築に取り組み、厚生労働科学研究費補助金を得ました。
先進国では医療スタッフは研修受講が義務付けられ、業務として組み込まれています。その状況と 5 年間の経験から、いずれは日本でも医学・医療における教育の重要な柱の一つになることは間違いありません。このモデルが日本全体に及ぶことにより、全ての病院内のあらゆる部署で教育研修が業務として組み込まれ、科学的指導が日常的になり、患者安全が向上することを夢見ています。

厚生労働科学研究費「医療の質・安全向上を目的としてシナリオをベースとしたフルスケールシミュレーターを用いた教育の有用性と遠隔教育の可能性」について

研究代表者

国家公務員共済組合連合会 虎の門病院副院長

シミュレーション・ラボセンター スタッフ

井田 雅祥

プロフィール

- 1979年（昭和54年）3月 金沢大学医学部卒業
- 1983年（昭和58年）3月 金沢大学大学院医学研究科博士課程修了
- 1980年（昭和55年）4月 虎の門病院内科病棟医として勤務
- 1986年（昭和61年）3月 同 後期課程修了
- 1986年（昭和61年）4月 神経内科医員
- 1994年（平成6年）6月 神経内科医長
- 2004年（平成16年）6月 リハビリテーション科部長
- 2005年（平成17年）4月 回復期リハビリテーションセンター長
- 2010年（平成22年）9月 シミュレーション・ラボセンター スタッフ
- 2010年（平成22年）10月 虎の門病院副院長

【免許・資格等】日本内科学会認定 総合内科専門医・指導医、

日本神経学会認定 神経内科専門医・指導医・代議員

日本リハビリテーション医学会 リハ科専門医・指導責任者

日本頭痛学会認定 頭痛専門医・指導医、日本認知症学会認定 認知症専門医・指導医

日本医師会認定産業医、労働衛生コンサルタント

2010年4月 平成22年度厚生労働省科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）研究課題名：医療の質・安全向上を目的としてシナリオをベースとしたフルスケールシミュレーターを用いた教育の有用性と遠隔教育の可能性 研究代表者

抄録

平成22年度から、シミュレーション教育を対象とした厚労科研費の募集が開始されました。共済医学会シミュレーション・ラボセンター（KS-lab）は、平成18年に虎の門病院の山口徹院長と当時副院長であった中西成元ラボセンター長の熱望によって共済医学会を母体として誕生しましたが、設立後すでに4年近くが経過していました。本邦のリーダーである諸先生方に協力していただいたお陰で、KS-labの研究受講者は順調に増加していました。その実践役であった大森正樹、荒井直美の両ラボマネージャーの活躍はよく知られていました。

そこで、これまでの活動と実績をまとめ、将来の方向性を本邦の専門家である先生方とともに組み上げていくよい機会になると考え、応募しました。背景には、医学教育におけるシミュレーション教育のあり方があります。世界的に見ても、シミュレーション教育は、従来のタスクトレーニングからシナリオトレーニングに移行しています。KS-labにはシナリオトレーニングの実績がありました。また、地域医療の向上にシミュレーション教育は役に立つはずです。こうした研究をテーマとして諸先生方の支援を得て、研究活動を行っています。このたびは、その概要をお話したいと思います。

運営参加病院からみる「連合会におけるシミュレーション教育の重要性」について
国家公務員共済組合連合会
新小倉病院診療部長 野村秀幸

プロフィール

昭和 55 年 3 月 27 日 九州大学医学部 卒業
昭和 55 年 6 月 1 日 九州大学医学部 第一内科 入局
昭和 60 年 11 月 1 日 九州大学医学部 第一内科 助手
昭和 61 年 10 月 1 日 福岡市立こども病院・感染症センター 内科医長
昭和 62 年 4 月 1 日 湯布院厚生年金病院 内科医長
平成元年 6 月 1 日 新小倉病院 内科医師
平成 3 年 1 月 1 日 同 消化器科医長
平成 10 年 4 月 1 日 同 内科医長
平成 11 年 4 月 1 日 同 内科部長
平成 17 年 4 月 1 日 同 診療部長
平成 18 年 6 月 1 日 同 肝臓病センター長 兼任
現在に至る。

非常勤講師：九州大学大学院医学研究院感染環境医学内科部門

厚生労働科学研究費補助金肝炎等緊急克服対策研究事業

「ウイルス性肝炎における最新の治療法の標準化を目指す研究班（H22 年度より）
「C 型肝炎難治症例の病態解明と抗ウイルス治療に関する研究」（H21 年度より）
「ウイルス性肝炎からの発がん及び肝がん再発の抑制に関する研究」（H22 年度より）
「肝炎に関する全国規模のデータベース構築に関する研究」（H21 年度より）
「B型肝炎ジェノタイプA型感染の慢性化など本邦における実態とその予防に関する研究」（H21年度より）
「慢性 C 型肝炎のインターフェロン療法における幹細胞機能の変化とうつ病発症に関する基礎・臨床連携研究」
（H22 年度より）

評議員：日本肝臓学会評議員、日本消化器病学会評議員、日本感染症学会評議員、日本消化器内視鏡学会九州支部評議員

所属学会・認定医・専門医・指導医：日本内科学会認定内科医・指導医、日本肝臓学会専門医・指導医、

日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、

日本感染症学会専門医・指導医

専門分野：B 型、C 型慢性肝炎の診断と治療

犬山シンポジウム正会員

抄録

シミュレーション・ラボセンターが 2006 年 4 月に虎の門分院に開設され、2008 年から地方出張が開始された。第 1 回目の九州・中国・四国地区出張は、人工呼吸器トラブルシューティング、透析時患者対応研修、患者急変対応研修等やオリジナル研修などを新小倉病院で開催された。参加者 64 名のアンケート調査では、参加動機は「上司に勧められた」が 68%であったが、終了時後の満足度は 94%と高く、シミュレーション教育が広く知らされていないが、その満足度が高いことがみられた。その後のアンケート調査をもとに、シミュレーション教育の重要性について報告する。

連合会病院の医療安全とシミュレーション・ラボセンター

国家公務員共済組合連合会
新小倉病院 看護部長
(前連合会本部 医療安全対策専門役)

丸山 泉

プロフィール

昭和 53 年 国立小倉病院附属看護助産学校卒業後、浜の町病院に勤務
平成 21 年 連合会本部に医療安全対策専門役として勤務
平成 23 年 新小倉病院に看護部長として勤務
現職に至る

資格 日本看護協会認定看護管理者

抄録

連合会病院の医療安全は、シミュレーション・ラボセンターと連合会本部により効果的に支援されている。

医療過誤を防ぐ努力は医療の質をいかにして向上させるかという日常の努力に他ならない。チーム医療が重視される現代の医療においては、テクニカルスキルのみならずノンテクニカルスキルを十分に発揮する事が医療の質と安全の担保となり、患者との信頼関係の構築にもつながる。そのスキル向上のために、シミュレーション・ラボセンターは連合会病院にとって欠かせない存在となっている。現状では、地方の病院において認知度が不十分であること、遠方からの利用が困難であること等の課題もあり、今後のさらなる発展が期待される。

シミュレーション教育は、その時代時代になしうる「最良のチーム医療」を提供するための、教育手段になりうるか。

国家公務員共済組合連合会
シミュレーション・ラボセンター
虎の門病院 看護部
ラボマネージャー/チーフナース
荒井直美

プロフィール

昭和 59 年 東京大学医学部附属看護学校卒業
昭和 59 年 虎の門病院呼吸器内科病棟看護師
昭和 63 年 虎の門病院循環器センター勤務
平成 2 年 CCU 勤務
平成 5 年 CCU チーフナース
平成 7 年 神奈川県立看護教育大学校 ICUCCU コース入学
平成 12 年 重症集中ケア認定看護師（～17 年）
平成 13 年 虎の門病院消化器外科呼吸器外科病棟
平成 16 年 虎の門病院内科外来
平成 18 年 KKR シミュレーション・ラボセンター

免許・資格：AHA BLS ファカルティ、AHA ACLS コースディレクター、
救急医学会 ICLS インストラクター
3学会合同呼吸療法認定士

研究分野：平成 23 年度 厚生労働科学研究 地域医療基盤開発推進研究事業

「医療の質・安全向上を目的としてシナリオベースとしたフルスケールシミュレーターを用いた教育の有用性と遠隔教育の可能性」

分担研究項目・シナリオをベースとしたフルスケールシミュレーターを用いた患者急変対応研修の有用性

抄録

チーム医療は、それぞれの職種が専門性や特性をお互いに発揮することで初めて生かされる。看護師の特性は、患者の傍に一番長く居ることである。だから、患者のちょっとした変化に気付いて発信するのは看護師の役割である。看護師が気付かなければ小さな変化は見過ごされ、やがて患者自身の「徐々な変化」は医療者から見た「急な変化＝急変」と映る。私が携わった「KIDUKI コース」は、看護師の持つ専門性や特性を発揮させる重要性から作成されている。専門職としてスキルアップは必要であるが On-the-job-training や座学での学習が難しい分野は、シミュレーション教育が有効となる。また、経験から学ぶのではなく、エビデンスに基づく知識を体験学習させる有効な手立てでもある。臨床に即したシミュレーション学習は専門職の質向上に十分役立てることが出来る。Ks-lab では現在、各種インストラクター育成や映像音声を使用した遠隔シミュレーション講習などを通じて、出来るだけ多くの方々に役立てる方法を模索している。

「一身独立して一国独立す」の言葉を胸に
～出張シミュレーションコースから考案する、連合会における新しい教育システムの構築について～

国家公務員共済組合連合会
シミュレーション・ラボセンター
虎の門病院 臨床工学部 臨床工学技士
ラボマネージャー/臨床工学技士 大森 正樹

プロフィール

1997年3月 日本工学院専門学校 臨床工学科卒
1997年4月 虎の門病院 臨床生理検査部 ME 管理室に配属 手術室 ME 担当
2003年6月 虎の門病院 臨床工学部設立 手術室 ME 管理室に配属
2006年4月 KKR シミュレーション・ラボセンター、ラボマネージャーに就任
虎の門病院分院 臨床工学部に配属

インストラクター資格：

AHA（アメリカ心臓協会）JSISH-ITC BLS ファカルティ/ACLS コースディレクター
日本救急医学会認定 ICLS インストラクター

所属学会：日本医療教授システム学会、日本臨床工学学会

研究分野：平成 23 年度 厚生労働科学研究 地域医療基盤開発推進研究事業

「医療の質・安全向上を目的としてシナリオベースとしたフルスケールシミュレーターを用いた
教育の有用性と遠隔教育の可能性」

分担研究項目・透析患者急変対応シナリオをベースとしたフルスケールシミュレーター研修の可能性

- ・インターネットによる遠隔シミュレーション教育の構築と研修の可能性の研究
- ・指導者研修の有用性の研究

抄録

「一身独立して一国独立す」この言葉は、福澤諭吉の「学問のすすめ」に記述されている。私がこの言葉を初めて耳にし、その意味を知ったとき、連合会の医療シミュレーション教育が、ないしはシミュレーション教育に限らず確立された教育システムとして未来永劫と継続される為に、連合会病院職員の一人一人が胸にしていなければならないと感じた。

そこで今回、出張シミュレーションコースのアンケート結果と、厚生労働科学研究の分担研究を通して考案した、KS-lab を中心とする新しい連合会における教育システムの構築を提案したい。そのシステムの要点は「独立」、「共有化」、「支援」であり、「誰かがいるから」というものではない。

2) 【第6回医療安全管理者研修が開催されました】

第6回医療安全管理者研修が代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて6月20日～24日まで開催されました。

今回の研修は前回同様、現在の医療安全管理の在り方を広い視野に立って考えることが出来る安全管理者を養成する構成としました。

受講者からは研修時間について問題はなく、内容に付いても大変良好、もしくは良好で高評価を得ることができ、今後も自院より多くの職員の受講を勧めるとの意見もありました。今回の研修の1/3の受講者が、自院の安全管理体制を十分とは考えていないとされていますが、その内容はこれまでとは異なり、細部にわたることが多くなり、徐々にではありますが安全管理体制が整ってきている印象が伺われました。さらに体制を整えるためにもこの研修を継続していきたいと考えております。

国家公務員共済組合連合会
シミュレーション・ラボセンター長
虎の門病院 医療安全アドバイザー
中西 成元

